

# 次世代の健康を守る出産・成育インフラにふさわしい名は？

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2016-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西沢, 邦浩 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/2948">http://hdl.handle.net/10271/2948</a>

## 次世代の健康を守る出産・成育インフラにふさわしい名は？

西沢邦浩

日経 BP 社 日経ヘルス、日経 BP ヒット総合研究所

2014 年 7 月 27 日、「日経ヘルス」は日本 DOHaD 研究会とともに、同研究会の第 3 回学術集会に連動する市民公開講座を、早稲田大学国際会議場井深大記念ホールで開催した。

日経グループのメディアを通してターゲットとなる妊娠出産を考える女性たちを集客するために、まず悩んだのがこの公開講座の名称だった。

かねてより早稲田大学の福岡秀興教授から DOHaD 問題についてご教示いただいていたメディア人として、何らかの形でこれを社会に、そして特にこれから妊娠出産しようとする女性とそのパートナーに正しく知らしめたいと考え、2013 年から日経グループの何社かに声をかけ動きを起こそうと諮っていた。その際の、このプロジェクトのコードネームは「すくすくチルドレン」を略して「すくチル」。「すくすくベイビー」ではすっかりした略語にしにくかったこともある。しかし、このすくチルという名称は、言葉の響きがいいが DOHaD の本質を表しているとはいえなかった。

そして、市民公開講座のタイトルは結局、『元気な赤ちゃんを「産み」「育てる」ために』という、説明的で玉虫色のものになった。しかし、この講座タイトルが女性へのメッセージスタイルだったせいもあってか、真夏で天候が不安定な休日だったにも関わらず、早稲田大本学キャンパスの中でも最も不便な場所に位置する約 450 人収容の井深ホールは女性たちで満員になった。

ちなみに、2015 年 6 月 27 日、NHK の「週刊ニュース深読み」という番組が、若い女性のやせ問題を取り上げたが、番組中で日本 DOHaD 研究会は、『「胎児への影響」研究会』という名称に“翻訳”されていた。やせのリスクをテーマにした番組の内容からして当然ながら『「(やせの) 胎児への影響」研究会』という意味で使用したのだろう。

この名称も、正確さはともかく、関心を持った人の脳裏に残ったかもしれない。しかし、残念ながら「胎児への影響研究会」をインターネットで探しても、そのものずばりの研究会は存在しない。

DOHaD を人口に膾炙するために、やはりわかりやすさは不可欠だ。しかし、この考え方が、妊娠前の母体から生後早期の子供までという、母から子と主体を変えながらヒトのもっとも重要な発達過程の健全性を対象とする、という“わかりにくさ”がベースにあるだけに、単純化は難しい。

この抄録執筆時点ではまだ議論に値する名称案を出すことは能わないが、残された時間の中で考えを深めてみたい。

最近の、個人的なネーミング例としては「ベジタブル・ファースト」というのがある。

これは、同じ内容の食事メニューでも、白米ご飯、白パンのような精白された糖質（炭水化物）食品に箸をつける前に、糖質の吸収をゆっくりにする食物繊維や多糖類、酸などを多く含んだ食品を先にとろうという食事法に対するネーミングだ。あえて、いろいろある糖質の吸収抑制因子を女性にイメージのいい野菜＝ベジタブルに象徴させ、さらに「レディ・ファースト」に想を得て、「ベジタブル・ファースト」と名付けたものだ。

幸いにも、それなりにイメージの良さや実用性があると受け取ってもらえたようで、かなり一般化した名称となった。

DOHaD の日本語名も、研究面からの必要性もさることながら、この考え方を最も知ってもらいたい人たちの腑に落ちて口にしやすい名称である、というのが大前提になってほしい。健康な子供の出生・成育環境は、国力自体に大きく関わるインフラだからこそ、名づける上でもそのような努力を怠るわけにはいかない。

## 略歴

1984 年 3 月 早稲田大学卒業。

1991 年 7 月 日経 BP 社勤務。開発部次長。

2005 年 1 月 『日経ヘルス』編集長。

2008 年 1 月 『日経ヘルス プルミエ』編集長。

2010 年 10 月 日経 BP 社ビズライフ局プロデューサー、テクノアソシエーツ ヴァイスプレジデント。

2013 年 4 月 日経 BP ヒット総合研究所上席研究員兼務。

2010 年 10 月にスタートした、健康美容情報に関するリテラシー養成講座「健康美容情報認定講座」を主宰。2006 年～2010 年まで東京女子医科大学外部評価委員。2015 年より日本腎臓財団評議員、等。

健康・医療分野における編集、執筆、教育、講演等を行う。

## 専門分野

健康・医療ジャーナリズム。女性の健康・疾病。食と健康・疾病